

教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8

兵庫教職員組合

発行人 山名幸一
編集人 西嶋保子
電話 050(3538)2346
1部7円 年定価280円
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

2009/1・1

No. 1731

本号は「教育ひょうご(家庭版)」として自宅に直送します。「家庭版」は、組合員以外のみならずにも増呈します。

新年号

新年あけまして

おめでとーございませす

2009年元旦

「元気で大きくなれよ」

07こどもの詩と絵より



2008年アートホール神戸 あさご芸術の森美術館賞の作品。「み〜つけた!」不動美智子さん(堺小)撮影

子どもたちの未来のため、 教育を中心とした民主的社会的実現を

兵庫教職員組合執行委員長 山名 幸一



2009年の年頭にあたり、兵教組本部を代表し、組合員・ご家族の皆様にごあいさつを申し上げます。

麻生政権はもはや末期症状を呈しているにもかかわらず、政権にしがみつき、国民の生活が破壊されようとしています。小泉政権以降の市場原理、競争主義の構造改革路線は、深刻な貧困と格差をもたらし、所得格差、地域格差などによって、子どもたちの権利、教育の機会均等が奪われています。そのような中、閣議決定された「教育振興基本計画」には、予算削減をもとめる表現が盛り込まれました。子どもたちのゆたかな学び、市民社会における主権者としての育ちを保障する、教育を社会の中心課題に据える政策の転換が必要です。

新学習指導要領が来年度から移行期を迎え、小学校での週1時間の授業増、全国学力・学習状況調査の継続実施と住民情報公開請求で、首長が一向に成績の公開に踏み切り、「点教学力」「競争主義」への偏向や教職員の勤務への過重負担が懸念されます。また、教員免許更新制の試行では、日教組の報告によると、交通宿泊費の負担など多くの課題が浮き彫りになりました。本格実施延期を含めた制度の見直しを日教組とともに求めていかねばなりません。

昨年のひょうご教育フェスティバル(第58次県教育研究会)は、地元明石支部、東北播磨地区の周到な準備と協力体制により、子ども・保護者・地域住民の参画と協働による、地域に開かれた教育研究会となりました。リポーター1380人のうち、教職員以外の報告者は23人となり、回を重ねるごとに増加しています。この成果を日教組教育研究全国集会以て発信するとともに、引き続き教育改革運動を発展させていくことが重要です。

兵庫県では、新行財政構造改革推進方策(2008、2018年)が策定され、県単独教職員の30%削減、給与の見直し・抑制、旅費や超過勤務手当の抑制、スクールア

シスタントの廃止、トライやる・ウィークの費用負担の見直し、学校厚生会への補助金削減などが打ち出されており、昨今の金融危機の深刻化などが与える影響が危惧されます。しかし、昨年の対県確定闘争では、臨探教職員の諸権利や勤務時間の適正化にむけたとりくみへの回答を得ることができました。また、大阪や岡山などの厳しい賃金カットの状況の中、兵庫の住居手当、休暇制度などの諸権利を維持・継続させることができましたことなどは、2万組合員が一致団結し勝ち取ったものです。

広島県教組から、尾道市の校長自死の裁判報告が日教組の会でありました。広島県は民間の校長を全国で最も多く登用し、尾道市では独自の教育改革をスタートさせていました。急激な改革が学校現場を激務にさせ、校長が心の病に陥り学校で自死されました。これを当時の教育委員会は、広教組が追い込んだとのキャンペーンを打った結果、組合の事務所に銃弾が打ち込まれたり抗議電話が殺到しました。裁判闘争では、1審で敗れましたが、2審では療養休暇を要望した校長に、休暇も認めず何の支援もなかった教育委員会こそ原因があるとして逆転勝利しました。一昨年、兵教組青年部が広島に学ぶ旅を企画し、日教組大会で「広島だけの(こ)こではない」と討論したことに対して、広教組は大変心強かったと言われました。今回、広島裁判は日教組事案としてとりあげられました。

一方、私たちの教え子たちが学校を卒業しても、就職先がない状況です。各会社は、非正規雇用、正規雇用の順にリストラをスタートさせ、いち早く外国人労働者や若者たちが犠牲になっています。このように貧困が連鎖する社会を許してはなりません。若者の行く末を考えたとき、私たちこそこの世の中を変えていく闘いをしなければなりません。戦後長らく続いてきた自民党による中央集権の官僚政治にピリオドを打ち、「労働を中心とした福祉型社会」「教育を中心とした民主的社会的」の実現にむけ、間近にせまった衆議院選挙において、法令を遵守しながら、日教組・連合兵庫とともに推薦する予定候補者の勝利と政権交代をめざしましょう。

政治を変えよう!! 教育を変えよう!!

日本教職員組合中央執行委員長 中村 讓

とれない状態にあります。



2008年は時代の転換を予感させる激動の一年でした。競争原理を至上とする新自由主義経済政策が、「聖

域なき改革」を我が物として、手を出してはいけぬ教育・福祉・医療などの公共サービス分野にまで踏み込み、社会のセーフティネットをズタズタにして、結果、日本を一部の富裕層と貧困層に格差を生じさせ、日本の社会を危機的状況に落し入れました。子どもたちの教育の前進に生活を考えなければならぬ事態です。麻生内閣は格差社会を改革できずに「自己責任」も

Change! Yes, We Can in Japan



第58次県教研 「子どもの育ちを考えるシンポジウム」

「子どもと響き合う教育をみんなで語り合おう」

夢や希望をあきらめず、最後まで頑張つて

吉田沙保里

2008年より子ども支援財団から、不登校の問題へのとりくみのノウハウを学ぶという立場で、6回の不登校シンポを積み上げてきた。この課題も引き続きつづき、教育関係者をはじめ、保護者や子どもたち、そして地域の皆さんとの「より開かれた教研」をめざし、「子どもと響き合う教育」をテーマに、子どもと教師、子どもと親がどのようにつながっていくかを学ばないかと、子どもの育ちを考えるシンポジウムとして再スタートした。

今回は、アテネ・北京オリンピックの女子レスリング55kgで大会2連覇を成し遂げた、吉田沙保里選手(吉)と東和人コーチ(東)をお招きし、総合教育研究財団の大橋節子理事長(大)の進行で、お二人のかかわりや会場からの質問など交え、「みんなで語り合い、みんなで響き合えるシンポ」を開催した。

I部

レスリングを始めたきっかけは。



「吉」家に道場があり父が指導者だったので、自然と足を運んでいました。初めての試合で対戦した男の子が優勝して、表彰台でメダルをかけているのを見て、「あのメダルが欲しい」と父に言いうと「頑張らないともうえな」と言われ、「よし、頑張る」と意識が変わりました。

「大」連勝記録が119でストップした悔し涙の銅メダルがあつて、北京の金があつたとお聞きしましたが。

「大」僕が116連勝をストップした時の経験から、この後が大変だと知っていました。やはりレスリングに打ち込めず、お父さんに呼ばれ彼女は実家に帰りました。子どもたちの練習風景に、幼かった自分を重ね、新たな気持ちで頑張れるようになったようです。

「吉」子どもたちの見本にならないと、気持ちを変えてもらえました。

II部 会場よりの質問

「吉」吉田選手はどんな子どもでしたか。また、東コーチは、指導をしてこられた魅力は。

「大」学校教育の中で、強い子だけが集まってもクラブとしては成り立たない。色んな子がいて、勝てたり、懸垂が出来るようになったりすると、子どもを変えられる楽しさと自信で、自分が励まされている。吉田や伊調姉妹に「このチーム・環境があるから、強くなっている」

「大」子どもたちの見本にならないと、気持ちを変えてもらえました。



「大」保母さんです。子どもが大好きで、一緒にいて楽しいし、子どもの成長を見たいです。他の選手から学ばれたことは。

「大」仲間と切磋琢磨して学んでいます。チームは大切で、あの子も頑張っている、あの子に負けたくない。自分も頑張ることが出来ます。一致団結してチームで練習している。団体競技みたいな個人競技です。ハレーボールを指導しています。選手、指導者として試合へのモチベーションの高め方は。

「大」自分はここに優勝しに来た、絶対勝つと自分に言い聞かせて試合に臨んでいます。勝つてはいいという教育は好きではありません。勝つまでの過程。チームワークや食生活からトレーニング方法など。勝つためにみんながチームの連携プレーを考え行動した先に勝ち負けがある。その過程を納得し、気持ちの一つになれればと思います。

「大」保母さんです。子どもが大好きで、一緒にいて楽しいし、子どもの成長を見たいです。他の選手から学ばれたことは。

「大」仲間と切磋琢磨して学んでいます。チームは大切で、あの子も頑張っている、あの子に負けたくない。自分も頑張ることが出来ます。一致団結してチームで練習している。団体競技みたいな個人競技です。ハレーボールを指導しています。選手、指導者として試合へのモチベーションの高め方は。

「大」自分はここに優勝しに来た、絶対勝つと自分に言い聞かせて試合に臨んでいます。勝つてはいいという教育は好きではありません。勝つまでの過程。チームワークや食生活からトレーニング方法など。勝つためにみんながチームの連携プレーを考え行動した先に勝ち負けがある。その過程を納得し、気持ちの一つになれればと思います。

「大」保母さんです。子どもが大好きで、一緒にいて楽しいし、子どもの成長を見たいです。他の選手から学ばれたことは。



藤井訓博 (県会議員・北区)



つじ泰弘 (参議院議員)



水岡俊一 (参議院議員)



本岡昭次 (元参議院副議長)



川上八郎 (伊丹市議員)



岩下 彰 (西宮市議員)



崎元祐治 (神戸市議員 須磨区)



掛水すみえ (県議員 西宮市)



尾仲利治 (明石市議員)



ひわだ充 (三田市議員)



つだ加代子 (川西市議員)



北野さと子 (宝塚市議員)



森上祐治 (南あわじ市議員)



武内純一 (たつの市議員)

兵政連(議員団)一同

お正月ファミリーパズル

右と左の絵をよく見くらべると、違っているところが10ヶ所あります。印刷のヨゴレやカスレは含みません。ではスタート。



まちがい探し! パズル制作・ひろ みよこ

子どもたちへのメッセージ

「吉」勝っているうちは、基本の大切さが分からない。負けて壁にぶつかったとき、基本の大切さが理解できました。

「大」夢を持って最後まであきらめず頑張る続ける。いつか夢はかなうと信じています。皆さんも、何でもいので、夢や希望を持って、あきらめないうちに最後まで頑張つてほしいと思います。

「大」子どもから大人、年齢、職業、性別を問わず、何かを願って生きていけば必ず訪れる「試練」という言葉が好きです。学校に行きたくない、なぜ行かなければならないかの疑問の中、周りには行くよう言われる。これも試練。様々な悩みに様々な考え方を。どうか周りの人が力を貸してあげ、一人で悩まないで、先生や親、友達など誰かに話をしながら解決していきけることが、当たり前のように出来ればと思います。